

丹沢山地新産のシダ植物 —ウスイハナワラビ—

田村 淳*・金井和子**・佐々木あや子**・中山博子**・山本絢子**

Newly distributed pteridophytes - *Sceptridium nipponicum* (Makino)
Holub var. *minus* (H.Hara) Sahashi -
in the Tanzawa Mountains, central Japan.

Atsushi TAMURA*, Kazuko KANAI**, Ayako SASAKI**, Hiroko NAKAYAMA**
and Ayako YAYAMOTO**

2003年9月に秦野市三ノ塔付近で丹沢山地新産となるウスイハナワラビを発見したので報告する。

ウスイハナワラビはハナワラビ科に属し、アカハナワラビの変種として記載されている(Sahashi, 1981)。アカハナワラビとの区別点は、栄養葉が小さいこと、および分布する標高帯が異なることである(岡, 2001)。すなわち栄養葉に関しては、アカハナワラビの栄養葉の幅が7~25 cm、最下羽片の下向き第一小羽片の長さが3~7 cmであるのに対し、ウスイハナワラビの栄養葉は幅3~10 cm、最下羽片の下向き第一小羽片は1~3 cmであり、ウスイハナワラビは小さい傾向がある。標高帯は、アカハナワラビが主として標高500 m以下の平地から低山に生育するのにに対し、ウスイハナワラビは標高700 m以上の山地に生育することで異なっている。

アカハナワラビは本州、四国、九州に広く分布する一方で、ウスイハナワラビは長野県とその近隣県にのみ分布している(Sahashi, 1981)。県内においてアカハナワラビは三浦半島を除く丘陵地から山地の広葉樹林内を中心に分布している(岡, 2001)一方で、ウスイハナワラビは箱根町の仙石原と箱根権現の2地点で確認されているのみだった(岡, 2001; 図1)。

今回発見した地点の生育環境は、標高950 mの山地頂部緩斜面の落葉広葉樹林下で、夏季はテンニンソウが密生しており(写真1)、冬季はテンニンソウが枯れて林床が明るい状態となる場所である(写真2)。Sahashi (1981)は、ブナ帯の明るい広葉樹林内に稀に生じると報告しており、発見した生育環境と一致している。今後も丹沢や小仏山地のブナ帯での発見が期待される。

2003年12月に現地で個体数を測定したところ、100 m²の広さに30個体を確認したが、冬季は紅葉して落葉の色と酷似するため(写真3)、見逃した個体もあると考える。それでも現地の広さを考慮すると少なくとも10²オーダーの個体数はあると思われる。

標本は発見当初の2003年9月に1枚、2003年12月に3枚採集し、神奈川県立生命の星・地球博物館に納めた(写真4)。なお、両時点で孢子葉を確認できなかった。

この報告にあたり、標本を同定していただいた東邦大学教授佐橋紀男先生、採集の許可をくださった諸戸山林事務所五戸進氏、調査する機会をくださった湘南地区農政事務所森林保全課本間範男氏にお礼申し上げる。

* 神奈川県自然環境保全センター研究部 (〒243-0121 神奈川県厚木市七沢657)

** 神奈川県植物誌調査会 (〒250-0031 小田原市入生田499 神奈川県立生命の星・地球博物館内)

引用文献

岡 武利(2001)ハナワラビ科. 24-29. 神奈川県植物誌2001. 神奈川県植物誌調査会(編), 1, 580pp, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 神奈川.

Sahashi, N (1981) Morphological and taxonomical studies on Ophioglossales in Japan and the adjacent regions (5) *Sceptridium microphyllum*, a new species, and its related taxa. Journ. Jap. Bot. 56: 129-136.



写真1 生育地の夏の林床状況



写真3 冬のウスイハナワラビ



写真2 生育地の冬の林床状況

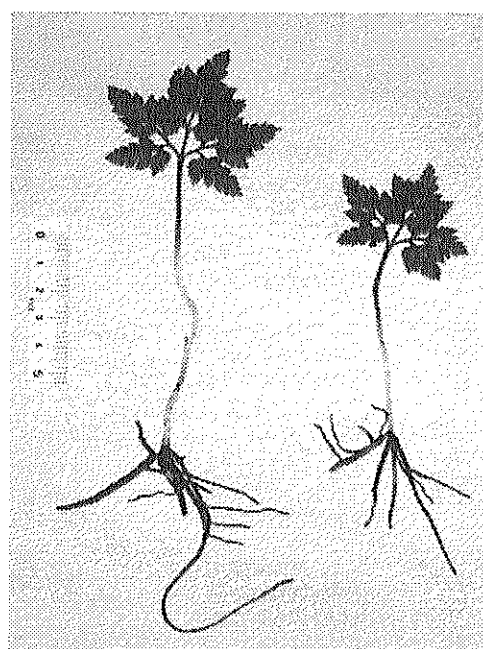


写真4 標本